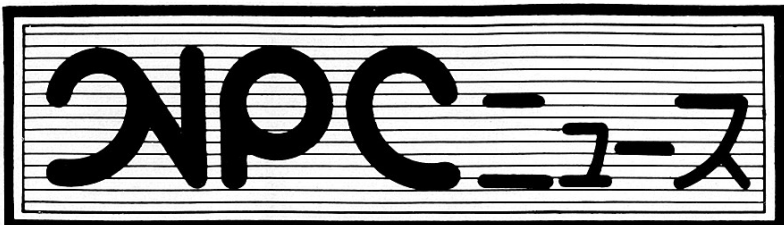


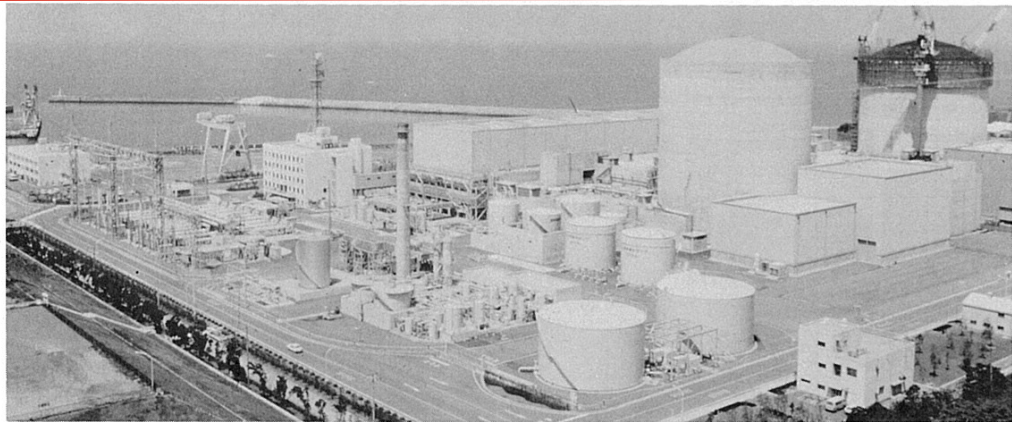
人間誰しも必ず過ちを犯す。しかし、過ちに早く気づき、改めることが大切である。それは少しも恥ではない。むしろ、前進への価値ある第一歩である。過ちとわかっていて改めないことこそ最も愚かであり、すでに過ちを犯しているのである。



昭和 59 年 8 月 (第 213 号)

発行者 西日本プラント工業株式会社
 総務部 東 宗 利
 福岡市中央区渡辺通 2 丁目 1 番 82 号
 電話 (代) 731-4321

印刷 今井印刷株式会社



△川内原子力発電所全景

川内原子力1号機(89万kW)運開

九州電力川内原子力発電所(鹿児島県川内市久見崎町)の1号機は、昭和53年5月敷地造成等の準備工事に着手、54年1月原子炉基礎掘削工事開始「着工」以来鋭意工事が進められていたが、59年7月4日めでたく営業運転が開始され、全国で27番目、九州では玄海原子力1・2号機につぐ3番目の原子力発電設備が誕生した。

当社では、この1号機建設工事に当たり、53年9月1日に川内原

子力建設所を開設し、電気、機械関係の準備工事に着手した。建設所開設当初、広大な敷地(約44万坪、甲子園球場の約36倍)の中には、人、車、機械もまばらで閑散とした状況で、当社の陣容も所長以下10名足らずであったが、54年1月の「着工」を境に急速に建設工場の息吹が高まり、土木建築関係工事が順調に進められた。

当社としても、埋設構造物設定等の先行工事に着手し、56年3月

には当社初の1次系据付工事(原子炉補助建屋内機器、配管設備据付他工事)に着手、同年9月、11月に1・2次系電機品据付配線工事及びタービン・発電機据付の本工事に逐次着手した。57年1月には原子炉計装工事に着手するなど、建設工事は、最盛期を迎え、同月下旬には最大1100名の当社要員が1・2号機の建設工事に従事した。

以上のように、工事施工範囲、要員とも最大規模の建設工事も、

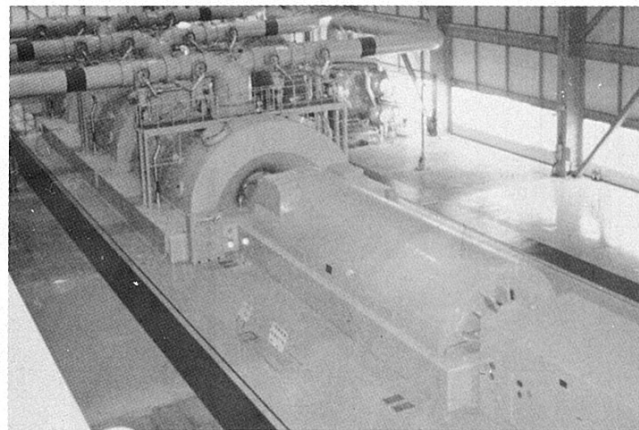
58年4月には諸設備の据付工事が終了し、同年8月初臨界、9月初併列、以後負荷上昇試運転を経て、今回の営業運転開始の運びとなった。

1号機建設着手以来、工事従事者全ての人達の大変な苦勞の積み重ねで運開に至ったのであるが、この建設工事施工に当たって最重点に推進した事項は、当社伝統の「誠実な施工」をモットーとした工事従事者末端に至るまでの品質管理要領の徹底、安全パトロールの強化や危険予知活動を柱とした安全の推進ならびに建設従事者の日常生活指導や交通事故防止を主眼とした労務管理の強化である。また、従来にならぬ大規模でしかも長期間にわたる建設工事であるため、時には活力を養うため、工事の合間を利用して行った各職場毎のレクリエーションや所内大運動会

等は、所員一同にとって格好の気分一新の場となり、職場の和づくりに対する所員の熱意がみられた。また、地元の体育祭等に若人達が積極的に参加し地元の人達との交流をはかっているが、今後の当社のイメージアップに役立つものと期待される。

この建設工事に従事した人達全てが、立派な原子力発電所をつくることを目標に、前述の最重点推進事項を真剣に受けとめ実行してきたことが、1号機運開という輝かしい成果につながったことを思うとき、この喜びの気持ちを更に引き締めて、現在最盛期の2号機建設工事の完成に全力を注ぎ、客先からますます信頼していただくよう頑張りたいと所員一同誓を新たにしている。

(川内原・建 中村所代)



△運開した1号機タービン・発電機

＝ 新小野田 ＝

1号ボイラヘッダー揚がる

中国電力株式会社新小野田発電所では、石炭火力を2基(各出力50万kW)建設中であるが、去る7

月25日に1号ボイラのヘッダー揚げが行われた。

当社は、この建設工事において、

石川島プラント建設株式会社から1号ボイラ据付工事を受注し、5月15日に作業所を設置、竹本所長を中心に鋭意工事を進め順調な工事の進捗でヘッダー揚げを迎えるに至ったのである。

このボイラは、変圧運転用超臨界圧貫流形再熱式で最大連続負荷時の蒸発量は毎時1670トン。

ヘッダーが揚がり本格化する工事に対し、作業の安全や効率化をより推進するため、朝礼時にパネルに描かれたボイラの断面図を用いて全員に各作業グループの作業予定を記して説明するという方法を行っている。

徹底した安全作業、効率的作業が期待される。

なお、今後の工事予定は、60年3月に水圧、8月に火入れを行い運開は61年4月となっている。



▷ヘッダー前での安全祈願祭

サウジアラビア・ラビP/Sに 技術者1名派遣

〈運転員教育で宮平さん〉

[7月4日=本店] 当社は、7月4日、サウジアラビア王国・ラビ発電所に技術者1名を派遣した。これは、三菱重工工業株式会社長崎造船所からの受注で、エンドユーザー運転員教育のため宮平達信さんを来年2月までの予定で派遣したもので、宮平さんは昨年12月から同社長崎造船所で教育用教材や資料を作成中であったが、その準備が整い7月4日現地に赴いたものである。

このラビ発電所は、サウジアラビア王国西海岸のラビ地区にあり、同社長崎造船所が火力発電設備(250MW×4基)の据付工事を行っており、今年1月下旬には現地における諸事務手続研修のため当社から早川悦朗さんを派遣している。

また、宮平さんは、イラク・ハルサ発電所(S.55.5～S.55.10)、サウジアラビア・ヤンプ発電所(S.55.12～S.56.11)、サウジアラビア・アルジョバール発電所(S.57.3～S.58.10)で運転業務

の経験がある。なお、現在当社から海外に派遣されているのは、オーストラリア・ベイズウォーター発電所に加藤さん、古賀さん、辻野さんの3名、コロンビア・タサヘロ発電所に上蘭さん(坂口さんは業務を終え6月27日に帰国)、それにサウジアラビア・ラビ発電所の早川さん、宮平さんの計6名である。



△出発前の宮平さん

海外派遣者用 ガイドブック完成

当社技術部海外課で、かねてから作成中であった「海外派遣者用ガイドブック」が完成した。

現在、当社からの海外派遣者は3カ国で6名だが、今後の海外派遣者の増加に備えてこのガイドブックを作成したものである。

同ガイドブックは、海外派遣にあたっての準備段階から渡航、

派遣先での諸注意事項、帰国手続等がA4版、115ページの中にもり込まれている。

海外経験者の体験に基づいて作成されたこのガイドブック。今後、海外派遣者の十分な活用が期待される。

なお、同ガイドブックは技術部海外課で保管している。

